

「ニッポン 公共事業物語」 NHK教育で5月毎週火曜日
ナビゲーターは塚屋太一氏

平安時代から現在までの歴史を振り返り、公共事業の役割や意味を考える番組「ニッポン 公共事業物語」が、5月にNHK教育テレビで放送される。ナビゲーターは作家で元経済企画庁長官の塚屋太一氏。公共工事の隆盛と衰退がどのような状況を生み残したかをシリーズで紹介する。

放送は5月4日から毎週火曜日午後10時25分～10時50分。桓武天皇が進めた平安京への遷都（4日）、治水や築城が盛んだった戦国時代（11日）、明治維新以降歩んだ国家の近代化（18日）を取り上げる。4回目の放送（25日）では、第2次世界大戦後から現在までの動きを追い、これからの公共工事をどう考え、どうしていけばいいのか、問題提起する。

番組テキストの中で塚屋氏は、公共事業のあり方を考える上で「日本の国をどんな方向に導くのか」という問題を避けては通れないと指摘。右肩上がりの経済成長を前提にした「規格大量生産を目指す戦後政策」と決別し、「そのために作られた制度、政策、慣行はやめなければならない」と強調している。また公共事業の概念を変え、「未来を創る事業」「夢を実現する仕事」という位置付けにするべきだとし

4/9

〒113-0033

東京都文京区本郷一丁目五番十七号
三洋ビル三階三〇号
建設コンサルタンツ協同組合